

支援センター名	子どもチャレンジ体験活動支援センター		
所在地	〒519-3696	三重県尾鷲市中村町10-50	尾鷲市教育委員会
連絡先	Tel	0597-23-8293	Fax 0597-23-8294

## 事業の概要とポイント

地域で情報を収集し、体験メニューの発案、発掘、工夫とともに、地域の人々の協力を呼びかけ実践している。特に地元の豊かな自然環境の「海・山」、伝統文化等に触れながら、季節の地産物を体験活動に取り入れ、子ども達にそのすばらしさを再認識する機会を提供している。

## 関係した学校・団体等の名称

市内小学校8校（尾鷲、宮之上、矢浜、向井、九鬼、三木、三木里、賀田小学校）  
尾鷲市食生活改善推進連絡協議会、紀北更正保護女性会、尾鷲市老人クラブ、むっそうええ会

## 地域の現況・特色

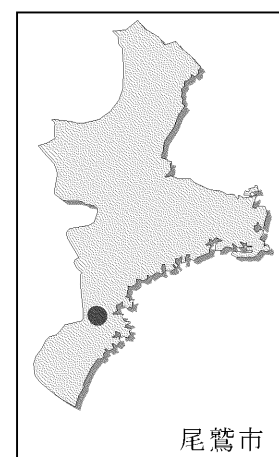
活動対象地域の人口 尾鷲市 23,203 人  
(平成 17 年 5 月 1 日現在)

尾鷲市は三重県南部、東紀州地域の中央に位置し、西は大台山系を境に奈良県に接し、東は太平洋（熊野灘）に臨んでいる。温暖多雨な気候と黒潮によって古くからその自然の恵みを受け、林業、漁業が栄えてきた。

特に豊富な雨にはぐくまれた「尾鷲ヒノキ」は、鮮やかな赤みと強靱な良質の材木として全国的にもその名を知られている。一方、基幹産業である水産業は、近年、「とる漁業からつくり育てる漁業」へと展開しつつある。

また、いにしえより「熊野詣で」「伊勢詣で」などで旅人が往来した熊野古道は「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。

こうした豊かな自然、歴史文化を地域の資源として活用するなかで「海の碧 山の緑あふれる情熱 東紀州 おわせ」を目指してまちづくりを推進している。



## 企画から活動までの経緯

平成14年4月1日	完全学校週5日制にともなって、子どもの居場所づくりとしての子ども体験活動を実施するため、子どもチャレンジクラブ支援センターを設置した。
平成14年度	協議会委員とコーディネーターを中心に活動の展開。生涯学習課職員も含め毎週2回の会議を開催し、活動内容、日程、募集等について協議した。事業ごとに募集のチラシを各学校へ持参して、児童への配布の協力を依頼し学校との連携を図った。(国庫補助事業を活用)
平成15年度	事業ごとに募集するのではなく、年間の会員クラブ制(4つのクラブ)で募集をして年間をとおして実施した。コーディネーターの活動内容および事業実施については、平成14年度とほぼ同様。(国庫補助事業を活用)
平成16年度	平成15年度と同様にクラブ制で実施した。(市費単独事業)

## 事例の展開内容(特色など)

分野の違った4つのクラブ制(①元気★キッズ ②ふるさと探検隊 ③手作り名人 ④入門囲碁教室)で子ども達が興味のあるものを自分で選択して参加できるようにし、もっとも興味があった盛況なメニューや、生涯学習課として子ども達に体験してもらいたいものを考慮して次年度の事業メニューに取り入れている。

クラブの登録者だけでなく、だれもが参加できるよう市内の全小学生を対象に単発的な事業も実施している。(年2~3回)

年々の積み重ねと試行錯誤のなかで充実した体験活動となるよう努めている。

### 【事例1】 ●竹ようかんづくりについて

コーディネーターの発案で、竹ようかんを作るだけでなく、まず地元で取れた天草について説明をし、自分たちで洗ってごみと分類し、日干しをしてから煮て作るという、すべての工程をとおして学ぶことを実践した。

このように、すべて準備されたなかでの体験活動でなく、工程をとおして深く知識を得ることが大切である。また、異学年とのつながりを持つよう、縦割りのグループで行動してもらった。

## 企画・活動する上でのポイント、留意点など

学校との連携を図り、より充実した体験活動を実施するため、教師と子どもの意識を把握する必要があった。そのため、小学校を訪問してコーディネーターと教師との懇談会を行った。さらに14年度は子どもを対象に、また15年度は保護者を対象にアンケート調査を実施して、子どもや保護者が体験活動をどう受け止め、何を求めているのか課題解決のために実態把握に努めた。

尾鷲市内でも中心部の子ども達は常に参加できるが、周辺地区の子ども達は地域的な交通の不便さから参加しにくいいため、周辺地区で活動の実施時に各公民館と連携を図って地元の子どもへ参加の呼びかけを行っている。

## 評 価

コーディネーターが仲介となって社会教育サークル団体や、他機関のボランティア団体等の協力を得て、地域ぐるみで事業に取り組むことが、家庭とともに地域でも子どもを育てることにつながる。

少子高齢化が進む現代、地元の高齢者に地域の先生として活動に協力、参加してもらうことが理想である。そのような交流が核家族化の時代に異世代の交流の場ともなる。

今後も、子ども達が様々な活動に参加し、体験することにより、地域のなかで協力しあう心を持ち、自ら判断する力や豊かな心が育つよう、様々な体験活動を継続的に実施していくことが必要である。

## 活動風景



執筆者職・氏名： 尾鷲市教育委員会生涯学習課 主事 仲 智子